

2. 事業の目的と概要	
(1)上位目標	村レベルにおける不発弾事故被害者等に対する応急処置等の能力及び救急搬送体制の強化、ならびに回避教育の質の向上を通して、不発弾事故による被害を最小限にする。
(2)事業の必要性(背景)	<p><u>(ア) 深刻な不発弾汚染と被害状況</u></p> <p>1960年代から1970年代のインドシナ戦争中に投下された、2億7千万個とも推定されるクラスター爆弾の子爆弾の一部は不発弾として残り、ラオスの人々の生活を脅かしている。2008年同国政府機関の調査によると、1964年以降シェンクワン県では約6,800名が不発弾の被害を受け、その半数以上が死亡している。2012年1年間に報告されたラオス全土の不発弾被害者数は56名(15名死亡、41名負傷)であり、中でもシェンクワン県の被害者数は最多の31名(5名死亡、26名負傷)にのぼる。また、病院が近くにない、治療費が払えない等の理由から受診を諦めた被害者や、病院に運ばれる前に死亡した者等、報告されていない例も含めると、被害件数はさらに増えると推測される。</p> <p><u>(イ) ラオスの保健医療制度</u></p> <p>病院施設より遠方にある村々においては、各村1~2名の村落保健ボランティアが村人の保健医療活動を行っているが、そのほとんどが応急処置の研修を受けたことがなく、外傷の応急手当や蘇生法に関する知識と技術は限られている。また、村には外傷の手当てを施すための医療器材が十分に揃っていない。シェンクワン県内のヘルスセンターや各郡病院でも、医療器材の老朽化、故障、数の不足等により、その機能を十分に発揮できていないところが多い。</p> <p><u>(ウ) 不発弾被害者への救急医療体制</u></p> <p>山間部に位置するシェンクワン県では、村から病院に搬送されるまでに、数時間から数日を要する場合がある。ラオスの国家規制局の統計によれば、その間に被害者の40%前後が命を落としており、一命を取りとめたとしても、治療が遅れたために、四肢の切断に至ることも多い。また、救急車が入れない悪路が多いのみならず、台数も県内に4台と限られており、緊急搬送手段の確保が必要である。</p> <p><u>(エ) 地雷・不発弾回避教育</u></p> <p>第2期事業では、UXO-Laoが回避教育で使用するノートパソコンやスピーカーを供与したほか、人形6体、不発弾の種類を描いたポスターを2種類計300枚作成し、65村においてのべ16,000人の村人に対し回避教育を行った。その結果、不発弾の種類や危険性、発見した際取るべき行動等に関する村人の知識が高まった。しかし現在もなお、不発弾と知らずに触れたり、農作業や焚き火の際に被害に遭う事故は多く、引き続き、不発弾や安全な行動に関する正しい知識を普及していく必要がある。</p>

	<p>(オ) 第1・2期事業の成果を踏まえた継続の必要性</p> <p>第2期終了時まで、第1・2期事業において対象とした4郡の270村の村落保健ボランティア385名と、25カ所のヘルスセンター看護師68名に対して応急処置研修を行った。研修では、不発弾事故に特有な外傷処置方法等も含めた、応急処置に関する正しい知識や技術を、実践を交えながら指導した。研修に対する参加者の満足度は平均88%と高く、参加者からは、研修の内容に対する高い評価や、学んだことを今後の活動に活かしていきたいという意欲が寄せられた。</p> <p>第1・2期に当会が実施した応急処置研修に参加した村落保健ボランティアが居住する村において、2011年5月から2013年4月までに報告された不発弾事故数は4件4名であった。そのうち1件1名について、当会の研修を受講した村落保健ボランティアが応急処置を施した。また、第1・2期において当会の研修を修了した村落保健ボランティアが、第2期終了時まで計137名の過去の不発弾被害者へ傷の手当てや精神的サポートを継続的に行ない、加えて、不発弾によるけがのみでなく、交通事故や高所からの転落、鋭利な刃物によるけがをしたのべ4000人の村人に対し処置を施している。さらに、研修を受けた村落保健ボランティアの84%が村の会議等で村人に対して不発弾の危険性や正しい応急処置方法について指導したり、被害者発生時の病院への搬送手段の確保について説明している。これらの結果は、村落保健ボランティアを対象として実施した当会の応急処置研修が、実施対象村における救急医療体制の強化や不発弾に対する正しい知識の普及に大きく貢献し始めていることを示している。当会の応急処置研修を受講したヘルスセンター看護師68名に関しては、現在モニタリング調査を実施中である。</p> <p>第2期事業終了時まで、第1・2期事業における対象4郡内の村落保健ボランティア及びヘルスセンター看護師への研修は終了し、彼らが各村において保健医療活動の中軸を担うことが期待されている。一方で、同様に不発弾事故が発生しているノンヘット郡、クン郡では、これまで同様の研修は実施されていない。シェンクワン県内における救急医療体制をさらに強化し、ひいては不発弾事故による被害を減らすために、これら2つの郡で同様の活動を実施する必要がある。</p>
(3)事業内容	<p>(ア) 応急処置に関する冊子とパンフレット、ポスター、ビデオ教材の作成</p> <p>不発弾事故後の応急処置に関する冊子を村落保健ボランティア向けに260部、より専門的かつ詳細な内容を含んだ冊子をヘルスセンター看護師向けに80部作成する(260部の内訳は、対象2郡の全村落保健ボランティア約230名分と予備30部、80部の内訳は、対象2郡の全ヘルスセンター看護師約50名分と講師分を含めた予備分30部)。内容は、不発弾事故に特有な外傷処置や救命処置と搬送方法や緊急時の連絡先等を中心とする。ま</p>

た、村人向けに、上記の応急処置の要点を簡潔に図解したパンフレット 2,000 部と啓発用ポスター 200 部を作成する（パンフレットは、村人に対する講習会の対象 25 村の各村に、人口の約 10%の枚数を配布、ポスターは、村人に対する講習会の対象 25 村の各村に、人口に合わせて 10 枚前後を配布）。さらに村人や村落保健ボランティアへの啓発用に、応急処置の方法や救命処置の流れについて説明するビデオ教材を作成する。

(イ) ノンヘット(Nonghet)郡・クン(Khoun)郡の郡病院職員に対する研修指導者養成研修 (Training of Trainers: ToT) 及び第 1・2 期事業の対象郡を含めた 6 郡の郡病院に対する医療器材供与

第 1・2 期事業において、県内 4 郡の郡病院職員を対象に実施した ToT 研修と同様の研修を上記 2 郡で実施する。ToT 研修の講師は、県保健局・県病院職員・県 UX0-Lao 医療班長が担い、不発弾事故に特有な怪我に対する応急処置や救命処置、教授法に関する演習を多く取り入れ実施する。

また、本事業の対象 6 郡の郡病院に対し、外傷処置に必要な医療器材（ピンセット、医療用はさみ、搬送用ベッド等）を供与する。

(ウ) ノンヘット郡・クン郡の村落保健ボランティア能力強化研修及び救急キットの配付

ToT 研修を受講した郡病院職員が講師となり、対象 2 郡約 120 村（人口約 72,000 人）の全村落保健ボランティア約 230 名を対象に、不発弾事故に特有な怪我の種類や応急処置等に関する 3 日間の研修を行い、救急キットを供与する。

研修終了後は、当会現地職員や郡病院職員、政府調整員からなる村落巡回チームが対象 2 郡のうち不発弾被害の多い 25 村を対象に村を巡回し、村落保健ボランティアの活動をモニタリングする。同時に村人を対象とした講習会を開催し、迅速かつ的確な応急処置の重要性を喚起したり、不発弾事故に備え予め各村の車・トラクターの持ち主を「村の救急車両ドライバー」として任命し、被害者を速やかに搬送できるよう手配しておくよう促す等、村での協力体制作りにも努める。

(エ) ノンヘット郡・クン郡のヘルスセンター看護師能力強化研修及び医療器材供与

対象 2 郡の 21 のヘルスセンターに勤務する看護師約 50 名を対象に、血圧測定の方法や出血時体液補充療法、記録の方法等、より専門的な内容について 4 日間の研修を行い、医療器材 21 セット（ピンセット、医療用はさみ、器材消毒用機器等）を各ヘルスセンターへ配付する。本研修は前述の ToT 研修を修了した郡病院職員が講師を担う。

(オ) 地雷・不発弾回避教育用教材の作成

今期事業では、第 2 期に改訂した回避教育ポスターの増刷、回避教育のメッセージをあらわしたイラスト付ノートの作成、ならびに不発弾の危険性や不発弾の事故から身を守るために必要な知識を歌詞に盛り込んだ歌を

	<p>制作する。歌詞は当会が実施する応急処置研修や村人対象の講習会に参加したシェンクワン県の村人達と協同で作成する。作成した教材や歌は本事業の応急処置研修等で活用し、また UX0-Lao や地元ラジオ局へも提供する。</p>
(4) 持続可能性	<p>事業終了後、村落保健ボランティアが担うことが期待されている村での応急処置や、救急キットの管理については、事業期間中に研修指導者養成研修（TOT）を受講し、同ボランティアへの応急処置研修も担当した郡病院職員がそのモニタリングやフォローアップを担う。TOT 実施時に、事業終了後どのように村落保健ボランティアのフォローアップを行ってゆくかを話し合う時間を設ける。継続した応急処置研修や普及活動、村における救急搬送体制の強化についても、事業終了後、カウンターパートである県保健局・病院関係者へ引き継ぐことを保健省との覚書に盛り込み、事業終了後の関係者会議でも改めて確認する予定である。</p> <p>村落保健ボランティアに供与する村の救急キットは、郡病院やヘルスセンターへ毎月使用明細を報告する形で既に補充体制が確立している既存の村の薬箱と同じ形で管理する。郡病院やヘルスセンターに供与する医療器材については、各郡病院やヘルスセンターが管理する。</p> <p>作成したり増刷した回避教育教材については、UX0-Lao が事業終了後も回避教育にこれら教材を活用していく。</p> <p>第 3 期で新たに購入予定の研修用血圧測定セット及び同研修用機材、教材ビデオ撮影用ビデオカメラは、事業終了後カウンターパートである国立リハビリテーションセンターへ移譲する。</p>
(5)期待される効果と成果を図る指標	<p>本事業の第 3 期終了時に達成されるべき成果</p> <p><u>(ア) ノンヘット郡・クン郡の郡病院職員研修指導者能力強化</u></p> <p>【成果】ノンヘット郡・クン郡の郡病院職員計 8 名が、研修指導者養成研修を受け、村落保健ボランティア及びヘルスセンター看護師を対象とした応急処置研修において講師として指導が出来るようになる。</p> <p>【指標】①ノンヘット郡・クン郡の郡病院職員 8 名が、研修指導者能力強化研修を受け、研修後の実力テストにおいて正答率が 8 割に達する。②郡病院職員が講師となって実施する応急処置研修の研修後アンケートで、研修生の 8 割が満足したと回答する。</p> <p><u>(イ) 県内 6 郡の村落保健ボランティアの能力強化</u></p> <p>【成果】ノンヘット郡・クン郡の村落保健ボランティア約 230 名が応急処置研修を受け、第 1・2 期に研修を受けた 4 郡を含む計 6 郡の村落保健ボランティア約 610 名が、救急キットを持って村を計画的に巡回し、過去の不発弾被害者対し、継続的治療を行う。さらに、交通事故や高所からの転落、鋭利な刃物等により怪我をした村人に対しても処置を施すことができるようになる。</p> <p>【指標】①ノンヘット郡・クン郡の研修を受けた村落保健ボランティアの 8 割が、研修後の実力テストにおいて正答率が 7 割に達する。②同ボラン</p>

ティアが、不発弾事故等の際に被害者に基本的な応急処置を施し、病院への搬送を手配できるようになる。③県内 6 郡の村落保健ボランティアが少なくとも 150 名の不発弾被害者、または負傷者を治療・問診する。

(ウ) 県内 6 郡のヘルスセンター看護師の能力強化

【成果】ノンヘット郡・クン郡のヘルスセンター看護師約 50 名が応急処置研修を受け、第 2 期に研修を受けた 4 郡を含む計 6 郡のヘルスセンター看護師約 120 名が、救急処置に関する適切な知識を得る。

【指標】①研修を受けたヘルスセンター看護師約 50 名全員が、より専門的な内容の実力テストにおいて正答率が 7 割に達する。②県内 6 郡のヘルスセンター看護師が、不発弾事故等の際に被害者へ適切な救急処置を施し、必要時には県レベルの高度医療施設との連携と搬送先の医療機関への適切な情報提供を行うことができる。

(エ) 地雷・不発弾の回避教育活動

【成果】応急処置研修や村人に対する講習会、UX0-Lao 等の回避教育において回避教育ポスターやノート、歌を活用し、より幅広い層の人たちに効果的に回避教育を行うことができる。

【指標】①UX0-Lao が対象としているペック (Pek) 郡・プークー郡 (Phoukout) 郡・カム (Kham) 郡・モックマイ (Mok Mai) 郡・タートム (Thathom) 郡において、のべ 20,000 人が回避教育を受ける。②応急処置研修や回避教育を担当する UX0-Lao の職員の 8 割が回避教育ポスターやノート、歌を用いることで、より効果的な回避教育が実施可能となったと回答する。③同職員の回避教育後、参加した村人への不発弾事故を防ぐ為の知識テストにおいて正答率が 7 割に達する。④研修に参加した村落保健ボランティアが本教材を活用し、各村で自主的に回避教育を実施し知識を普及する。